

2	一宮	一宮市立萩原中学校	スズキ ルリ 氏名 鈴木 ルリ
分科会番号	14	分科会名	特別支援教育

研究題目

「個に応じた有効な教材・教具の工夫と活用」

— 視て聴いて触って、実感できる活動を通して（音楽） —

研究要項

1 はじめに

昨今、将来障がい者としてではなく健常者と同様に働くことを希望し、高校卒業資格を取得できる進学先へ進みたいと考える生徒や保護者が増えている。本校でも、7名在籍している特別支援学級の生徒のうち、知的障害の有無に関わらず、将来を見据えて、複数の教科の授業を交流学級で受けている生徒がいる。

私は特別支援学級の担任をしながら、通常学級の音楽の授業も担当しており、そこに特別支援学級の生徒も参加している。交流学級での授業を受けている生徒は、支援学級のカリキュラムの構成上、通常学級との教科の履修時間数の違いが出てくる。中学校当該学年の教育課程で学んでいるが、時数の違いから交流学級で受けられない授業も出てくる。特別支援学級の授業は人数が少ないため、一つ一つの学習活動に時間をかけることができる。また、個々の障害に応じた丁寧な指導も行うことができる。一方、特別支援学級の音楽の授業を受けている生徒にも、個々の理解力・技術力に差はあるものの、適切な支援をすれば、中学校の音楽の学習内容を理解する力が備わっていると感じた。

そこで今回は、中学校音楽の教科書内容を、個の特性に応じ、興味をもって取り組むことのできる支援の在り方について研究することにした。通常学級の生徒にも音楽分野が苦手な生徒がおり、特別支援学級の生徒だけではなく、ユニバーサルな教材教具を活用し、どの生徒も興味・関心をもって、主体的に取り組める授業ができるように考えた。

今回は、実際に視たり、聴いたり、触ったりすることで、主体的な学びにつながる授業実践について紹介したい。

2 生徒の実態

在籍する生徒のうち、特に次の2名に着目して研究を進めることとする。

- ・生徒 A・・・1年男子。音楽の授業は特別支援学級の授業のみ参加している。長時間集中して学習に取り組むことが難しく、手遊びなどをしてしまう。困っていることがあると、パニックを起こすことがある。音楽の授業では、歌唱することが得意である。アルトリコーダーを演奏することは得意ではないが、リコーダーの運指を覚え、熱心に練習に取り組むことができる。新しいことを調べるのが好き。
- ・生徒 B・・・1年男子。音楽の授業は交流学級と特別支援学級の両方に参加している。その他、実技教科の交流の授業に参加している。発問に対して、理解・判断に時間がかかる。声に出して返答することが苦手である。周りの環境になじむまで、その場の状況に対応することができなくなる。単独だと難しいが、複数の生徒と一緒に演奏することはできる。音名を書かなくても楽譜を読むことができる。

3 授業実践【1年生 単元名：(「春」第1楽章)】

(1) 弦楽器の豊かな表現を鑑賞しよう

(2) 指導計画

- ① 「春」第1楽章のソネットと音楽の関係を理解しながら鑑賞する。・・・本時
- ② リトルネッコ形式の構成を考え、曲想を感じ取る。

(3) ねらい

演奏している楽器の音色や楽器の特徴を理解する。

(4) 指導過程

	学習活動	指導上の留意点(手立て)
導入	<p>1 曲名あてクイズをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主題(Aの部分)を聴き、「春」、「夏」、「秋」、「冬」の中から曲名を予想し、その理由を考える。 ・思いついたことを発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音色、リズム、旋律、強弱がどのように聴こえたかで、予想した理由を考えさせる。 ・「春」以外を予想していても、聴こえたこと(知覚)から感じ取ったこと(感受)についての考えを尊重する。 ・クイズの答えを伝え、この後の曲の展開への関心を高める。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>㊦ 協奏曲「春」に関心を持ち、楽器の音色に親しまおう</p> </div>		
展開	<p>2 めあてを確認して本題材の見通しを持つ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配付されたプリントの説明を聴く。 ・ワークシートにめあてを記入する。 <p>3 DVDを使って、主題Aを聴き、演奏している楽器を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート1(1)に楽器の大きさ順で弦楽器の名称を記入する。 ・記入した答えを発表する。 <p>4 弦楽器の中で一番大きな楽器「コントラバス」が担当教員より大きい小さいかクイズをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの映像から想像し、学級で話し合って考える。 ・大きさの予想を挙手する。 ・実際に見て確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽を表すいろいろな言葉や、音楽の感じを表した表を使って、音楽的な観点で文章を書く書き方を知らせる。 ・動画でとらえにくい生徒には、教科書の写真を提示しておく。 ・発表した内容を教科書で確認させる。 ・大きさの予想を挙手で答えさせる ・実際に教員が持って、楽器の大きさを生徒に確認させる。

	<p>5 実際にコントラバスに触り、楽器の様子を体感する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・弦をはじいて、太さの違う弦の音がどうなっているのかを聴き取る。 ・楽器の響きや音色を実際に感じ取る。 <p>6 ワークシート1（2）を記入する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・弦楽器以外の楽器を見つけ、ワークシートに記入する。 <p>7 ワークシート1（3）を記入する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・弦楽器以外の楽器についてクロームブックを使って調べる。 ・実際にギターを使って、弦を打って出す音と、引っ掛けて出す音の違いを聴き取る。 <p>8 ヴァイオリン協奏曲「春」第1楽章を聴き、ソネット A～E の情景をどのように表現しているかを聴き取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・流れてくる曲の表現が、ソネットの情景に適したと思うところで手を挙げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に触って音を出させて、楽器に興味をもたせ、弦楽器への関心を高める。 ・楽器の音色や構造について声掛けをし、生徒に認識させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・教科書の指図を見て、楽器について確認させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・形が似ている身近な楽器のピアノの発音の様子を実際に生徒に見せる。 ・ギターを使って、「チェンバロ」と「ピアノ」の発音の違いを理解させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・はじめに配ったプリントの言葉を参考に、音楽的観点でソネットの情景を曲がどう表したか確認させる。
<p>まとめ</p>	<p>9 本時のめあてを振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヴァイオリン協奏曲「春」第1楽章を演奏している楽器と音色について思い出してみる。 ・曲の感想を一言で発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・めあての振り返りをさせる。 ・楽器の音色や曲想について確認させる。 ・生徒が曲に関心をもつことができたかを確認する。

(5) 授業の実際

① 視て聴いて触って実感できる活動

ワークシートを中心に、「春」第1楽章を演奏している楽器について確認しながら授業を進めた。学習の中で取り上げた楽器を、実際にある身近な楽器に触れたり、クロームブックを使って調べたりして、構造や音色を知ることができた。そこから、楽器に対する関心が高まり、より演奏に興味を持つことができた。

生徒 A は、クロームブックを使って楽器の構造などを自分から進んで調べ、楽器についての関心を高めることができた。生徒 B は、コントラバスの弦を弾いて、音を聴くことで、楽器の構造についての認識を深めることができた。その後、A～E それぞれのソネットの情景を確認し、音楽がソネットに書かれている情景を表し始めたと思ったら挙手をするという形で、音楽の表現とソネットの関わりを確認した。

<音楽を表す言葉のプリント>

音楽を表すいろいろな言葉	
速度を表す言葉	ゆっくり 遅い 遅い だんだん速く だんだん遅く
強弱を表す言葉	強い 弱い とても強い だんだん強くなる 急に弱く
旋律などの動きを表す言葉	上がっていく(上行) 下がっていく(下行) 音がとぶ(跳躍) 動きが少ない なめらか 山型 谷型 波型 裝飾
リズムを表す言葉	一定 不規則 付点 反復 歯切れがよい シンコペーション
テクスチャを表す言葉	主旋律と副旋律 ハーモニー(和音) 旋律のかけ合い 応答 独奏と合奏
形式、構成を表す言葉	反復 変化 対照 呼びかけたり答えたりする また出てくる 二部形式 三部形式 リトルネッロ形式 ソナタ形式

<音楽の感じシートのプリント>

音楽の感じシート				
落ち着いた	気分	感じ	気分	感じ
		おだやか おおらかな	明るい 晴れ晴れとした	
		静かな のんびりとした	楽しい 新鮮な	
		ゆったりとした なごむ	うさぎさとした 静やかな	
	ほがらか 神秘的な	とまめく		
やさしい	気分	感じ	気分	感じ
		優しい なめらかな	懐かような 静やかな	
		あたたかな さわやかな	元気な 輝かしい	
		夢見るような 繊細な	堂々とした 情熱的な	
	やわらかな 流れるような	躍動的な		
こわい	気分	感じ	気分	感じ
		気味が悪い おそろしい	悲しい 陰うつとした	
		不気味な ぞっとする	暗い 黒々しい	
		あやしい ぎょっとする	さびしい 黒い	
	逆巻く	冷たい		
勇ましい	気分	感じ	気分	感じ
		堂々とした 激しい		
		情熱的な 究々しい		
		力強い 野性的な		
	エネルギッシュな			

② 知覚したことから感受したことを言葉に表わす手立ての工夫

鑑賞の授業では、音楽を聴いて分かったこと(知覚)と、そこから感じたこと(感受)を、感想として記述する活動がある。これは支援学級の生徒でなくても難しい。そこで、上のプリントを配付し、「知覚」したことと「感受」したことを表わす言葉を見つけて書くようにさせた。本時は、導入で行った曲名あてクイズで、音色・リズム・旋律・強弱について曲を聴いて、分かって感じたことを、音楽的観点で考えるようにさせている。生徒Aは、自分の言葉で曲名を予想した理由を発表することができた。生徒Bは、曲名を予想した後、知覚と感受に関して、段階を追った質問に答えていく中で、曲名を予想した理由を述べることができた。

<生徒Aのワークシート1>

「和声と創意の試み」第1集から

① 楽器の音色に親見しよう。

1. 「春」第1楽章を鑑賞し、使われている楽器の音色(おんしよく)や演奏の仕方など、気がついたかのを整理しよう。

(1) 使われていた弦楽器を小さい順に整理しよう
 小① ヴァイオリン
 ② ヴァイオラ
 ③ チェロ
 大④ コントラバス

(2) 弦楽器以外に使われていた楽器はありましたか?
 チェンバロ

(3) 楽器の音色や演奏の仕方など、気がついたことを簡単にまとめよう
 つめかハンマーで音のバネ且みか変化するということがわかりました。

<生徒Bのワークシート>

「和声と創意の試み」第1集から

① 楽器の音色に親しもう

1. 「春」第1楽章を鑑賞し、使われている楽器の音色（おんしょく）や演奏の仕方など、気がついたかとを整理しよう。

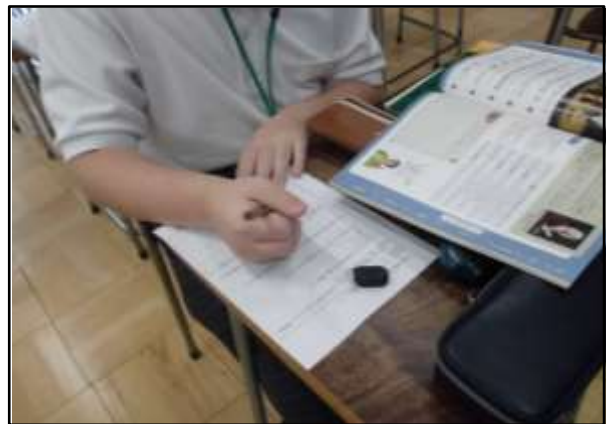
(1) 使われていた弦楽器を小さい順に整理しよう
小①バイオリン
②ヴァイオリン
③チェロ
大④コントラバス

(2) 弦楽器以外に使われていた楽器はありましたか？
チェンバロ

(3) 楽器の音色や演奏の仕方など、気がついたことを簡単にまとめよう
チェンバロは、爪で弾くことで弓弦を振動させて音を出す発音楽器ですが、ピアノはハンマーで叩いて弦を振動させて音を出す打弦楽器であること

2. A～Eのソネットが表す春の情景を理解し、それをどのように音楽で表しているかを聞き取ってみよう。

<ワークシートに記入をしている生徒の様子>



<コントラバスを体験する生徒の様子>



<ワークシート1（3）についてクロームブックを使って調べている様子>



<ピアノの発音の構造を確認している生徒の様子>



<弦を打つ発音（ピアノ）をする様子>

<弦をはじく発音（チェンバロ）をする様子>



4 成果と考察

鑑賞の分野は、多くの生徒たちが「知覚と感受」を表現することに慣れておらず、苦手と感じる生徒が多い。また、支援学級の生徒の中には、曲の感想や良いと思うところを言い表すことができない生徒もいる。生徒が困難を感じる場面で、それをサポートする有効な教材・教具を、「実感できる活動」の研究の手立てとした。視たり聴いたり触ったり調べたりすることで、対象とした2人の生徒は、本時の授業で学んだ知識を定着させることができた。これらの手立てにより、生徒が主体的に授業に取り組むことができ、さらに時間をかけて丁寧に指導することで、個に応じた指導ができた。今後も、苦手やできないことに負けずに、興味をもって主体的に取り組める授業への工夫を考えていきたい。